

令和5年度 京都市防災会議専門委員会（原子力部会）

1 日 時

令和5年11月24日（金） 午後3時～午後4時

2 場 所

京都市危機管理センター

3 出席者

- ・京都市防災会議専門委員会 原子力部会委員 6名
- ・関西電力株式会社 執行役員 京都支社長 他3名
- ・京都市危機管理監 他2名

4 議 題

- (1) 京都市地域防災計画 原子力災害対策編の修正等について
- (2) 京都市における原子力災害対策の取組状況について

5 関連報告「大飯発電所の取組等について」（関西電力㈱から報告）

- (1) 大飯発電所における至近のトラブル情報等一覧
- (2) 大飯発電所1、2号機の廃止措置状況について
- (3) 使用済燃料対策ロードマップについて

令和5年度 京都市防災会議専門委員会 原子力部会

出席者名簿（敬称略）

専門委員（原子力部会） ◎ 部会長

氏名	職名	分野
石川 裕彦	京都大学名誉教授	応用気象学、気象災害
大野 和子	京都医療科学大学教授	放射線管理
高橋 良和	京都大学大学院工学研究科教授	耐震工学
藤川 陽子	京都大学複合原子力科学研究所教授	環境工学、放射線の土壌への影響
堀 順一	京都大学複合原子力科学研究所教授	核データ、放射線計測測定
◎三島 嘉一郎	京都大学名誉教授	原子炉工学

（五十音順）

関西電力株式会社

職名	氏名
執行役員 京都支社長	奥戸 義昌
原子力事業本部 副事業本部長	田中 剛司
原子力事業本部 原子力発電部門 廃止措置技術センター所長	原 茂樹
原子力事業本部 原子燃料部門 原燃計画グループ チーフマネジャー	亀田 保志

京都市

職名	氏名
危機管理監	廣瀬 智史
行財政局 防災危機管理室長	和田 隆宏
行財政局 防災危機管理室 原子力災害対策・広域連携課長	高原 敏訓

議題(1) 京都市地域防災計画 原子力災害対策編の修正等について

○ 説明

ア 京都市地域防災計画 原子力災害対策編

- ・ 統計数値の時点修正、字句修正 など

イ 京都市環境放射線モニタリング計画

- ・ 水道水モニタリングの採水箇所の変更
- ・ 時点修正 など

ウ 京都市水道対策計画

- ・ 水道水モニタリングの採水箇所の変更

エ 原子力災害避難計画

- ・ 統計数値の時点修正 など

○ 委員からの主な意見・質疑等

- ・ 水道水モニタリングに関して、採水箇所を増やす目的を確認したい。
⇒ 全般的な水質の向上を図るため、各浄水場の配水系統ごとに、新たに採水箇所を増やして水質検査を実施することに併せて、放射性物質の検査も行うもの。
- ・ 水道水モニタリング結果において、ヨウ素のみに欠測データがある理由は。
⇒ 1台の分析装置でヨウ素、セシウムともに測定しているが、機器の故障修理に数箇月を要した際に、半減期が極めて短いヨウ素については、測定精度を保つことができないことから、欠測扱いとした。

議題(2) 京都市における原子力災害対策の取組状況について

○ 説明

ア 環境放射線モニタリングの実施

イ 原子力防災訓練の実施

ウ 防災業務関係者の育成

エ 広域避難受入体制の整備

○ 委員からの主な意見・質疑等

- ・ 原子力防災訓練について、参加者の反応や感想について伺いたい。
⇒ 5年ぶりの住民参加による訓練で、「原子力災害時の注意点を再確認することができた。」「避難時のカップ着脱方法の体験が勉強になった」などの、前向きな感想があり、継続的な訓練の実施を望む声もあった。

関連報告 大飯発電所の取組等について（関西電力(株)）

○ 説明

- ア 大飯発電所における至近のトラブル情報等一覧
- イ 大飯発電所1、2号機の廃止措置状況について
- ウ 使用済燃料対策ロードマップについて

○ 委員からの主な意見・質疑等

- ・ 大飯発電所1号機アイスコンデンサ室冷却配管損傷に関して、事前の金属探査では配管を検出できなかったとのことだが、金属探査には限界があるため、建設図面等にて埋設配管の情報を関係者間で共有し、同様の事故防止に努めていただきたい。
- ・ 大飯発電所1、2号機の廃止措置に関して、残存放射能については、データをしっかり蓄積し、今後の他の発電所における廃炉作業にも活用してもらいたい。また、解体廃棄物の取り扱いについては、残存放射能レベルに応じて処分方法や処分先を計画段階からあらかじめ設定しているのか。
 - ⇒ 廃止措置については、第1段階である解体準備期間において、残存放射能を調査、把握をしたのちに第2段階の解体作業を進めることとなる。この調査は、解体作業における被ばく量の把握だけではなく、解体後の廃棄物を適切に埋設するため、汚染レベル別に区分する目的でも実施している。
- ・ 使用済燃料対策ロードマップについて、乾式貯蔵施設の設置検討は、中間貯蔵に当たらないのか。また、山口県上関町における中間貯蔵施設の見通しはいかがか。
 - ⇒ ロードマップに記載の乾式貯蔵施設は、将来の中間貯蔵施設への円滑な搬出準備のために設置するものであり、中間貯蔵施設には当たらず、具体的な設計については、今後の検討としている。上関における中間貯蔵施設については、調査段階であり、現時点で詳しい情報をお伝えできる段階ではない。使用済燃料の取扱については、国の核燃料サイクル施策に基づき、まずは青森県六ヶ所村にある再処理工場への搬出を優先して実施することになる。
- ・ ロードマップの取組が想定より遅れた場合に、各発電所における使用済燃料の貯蔵量が、許容量を超えることはないのか。
 - ⇒ 発電所内の使用済燃料プールの貯蔵量には、あと4年ほどの余裕がある。ロードマップでは、フランスへの搬出、また、六ヶ所再処理工場のしゅん工に向けた取組など、ロードマップを確実に進めることで、なるべく貯蔵量を増やさない取組を進めていく所存。